

平成 31 年 3 月 7 日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

はい、それでは、ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。
先ほどご案内のとおり本日も、ライブで配信をしております。
本日の話題は1件。それでは市長、よろしくお願いいたします。

【市長】

先ほどは、溶融スラグの件で活発な質疑応答ありがとうございました。
お手元のこの資料、配付をさせていただいていますけれども、実行委員会から特別に今日この記者会見のために、もう絶対当日以降じゃないと、これは配布しないという方針だったのを「いや、今日記者会見でPRしてくるから特別に頼む」ということでパンフレットを皆さんにお配りをさせていただきました。

今年、名称が変わります。「しぞ〜かおでん祭」と。フェアというカタカナから、祭という日本を象徴する“祭”という言葉に変えた。そこに気合を入れて、全国に発信できるような冬の風物詩、私たち「まちは劇場」という流れで、四季折々のフェスティバルを、例えば春は静岡まつり中心に、秋は大道芸中心にと、組み立てる中の冬フェスの最後を飾るイベントにしていきたい、成長させていきたいという思いを込めて、名称を「しぞ〜かおでん祭」というふうに変えた、ということであります。行政も一生懸命下支えしていきたいなと思っております。静岡マラソンの次の冬フェスの最後のイベントであります。

今年は、静岡おでんだけではなく、北は青森から西は姫路まで、全国各地のおでんが集まるだけではなく、「フェスティバル」「祭」ですので、エンターテインメント性も付加して、盛りだくさんの楽しみのある「しぞ〜かおでん祭」にしていきたいというふうに思っています。静岡おでんと全国のおでん、全部で 31 店舗のおでん屋台が軒を連ねます。この週末は、静岡おでんで、ぜひ心も身体も温まっていたきたいと思えます。「よってこ、食べてこ、おでん通」よろしくお願いいたします。

それでは今日の話題。

「静岡市の新たな玄関口スマートインターチェンジの名称決定」に移ります。

もうすでにプレスリリースをしております、「日本平久能山インターチェンジ」という名称になりました。着々と工事が進む中部横断自動車道では、新清水ジャンクションから富沢インターチェンジまでの区間がいよいよ 10 日、日曜日に開通します。

そして、もう一つ、5月 26 日には、全線開通 50 周年を迎える東名高速道路では、駿河区の大谷小鹿地区で NEXCO 中日本とともに、静岡市の新たな玄関口となる新しいインターチェンジの整備を進めています。その新インターチェンジの供用開始も、本年の秋に迫り、活発な人や物の交流を促し、経済活動や快適な市民生活を支える大規模社会資本の整備が着々と進んでおります。

その東名高速道路のスマートインターチェンジの名称が、静岡市の新たな玄関口にふさわしい名

称に決まりました。ズバリ、名称は「日本平久能山スマートインターチェンジ」です。

日本平と久能山が2つ並び、高速道路を利用する皆様がインターチェンジの周辺に何があるのかイメージしやすい名称となりました。

この名称は平成 28 年度に行った公募を踏まえ選ばせていただきました。日本平と久能山はともに、市民アンケート調査の中でも8割以上の皆さんが、静岡市が国内外に誇れる地域資源として特別な思いを抱いているものであります。日本平と久能山は、各々が独自の歴史的な価値、風光明媚な自然景観を持ちつつも、日本平ロープウェイで結ばれる一体的な観光資源でもあります。

国の名勝・日本平に比べて、久能山の全国的な知名度はまだ低いのが現状です。

徳川家康公ゆかりの地で、静岡県内唯一の国宝建造物である久能山東照宮を有する久能山を、たくさんの方々に覚えてもらいたい、全国に発信していきたい、と思っています。

この日本平、久能山の相乗効果による、さらなる地域価値の向上、知名度向上につながるものであります。また、日本平、久能山、三保を日本一の観光地に磨き上げるというビジョンのもと、日本平久能山スマートインターチェンジが完成することによって、昨年オープンした日本平夢テラス、そして国宝久能山東照宮、そして今月オープンする三保松原文化創造センターを擁する世界遺産三保松原をはじめ、今年 50 周年を迎える日本平動物園、あるいは、これから様々な仕掛けを行革審の中からも提言をされている登呂遺跡など市内有数の観光地への市外からのアクセスが向上します。さらに、日本平久能山インターチェンジ建設地、恩田原・片山地区では企業立地のための土地区画整理事業を含めた周辺開発が進んでいます。当初の建設投資による経済波及効果が 550 億円以上と見込まれております。

新しいインターチェンジは、地域の活性化に大きな経済波及効果が期待されます。今年の秋の開通を目指し、いよいよ仕上げの段階に来ています。一日も早い開通を目指し、NEXCO 中日本と官民連携しながら、本市も全力で取り組んでいきます。以上です。

【司会】

はい、それでは、ただいまの発表項目につきまして、質問がある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は社名とお名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。では、朝日新聞さん。

【朝日新聞】

今の、市長の説明で質問が2つあります。工事費はいくらで、市はどれくらい出しているのかということと、それから経済波及効果が 550 億円というのは、いつこの機関が出しているのでしょうか。

【市長】

はい、2つ質問をいただきました。事業費はどのくらいか、あるいは経済波及効果の根拠は何かということですので、所管の局から説明をいたします。

【新インターチェンジ周辺整備課】

新インターチェンジ周辺整備課でございます。投資額、インターチェンジの建設費でございますが、本体工事総額で約 60 億、その3分の1にあたります 20 億程度を本市が充当しております。経済波及効果でございます。これはですね、周辺の開発はですね、先ほど市長のお話にもありましたけれども、恩田原・片山土地区画整理事業をですね、企業立地のために進めております。それともう 1 つ、南側の宮川・水上地区というところのエリアをですね、静岡市としては周辺整備エリアとして優先的に整備を、インターチェンジと相乗効果を上げていきたいということで取り組んでおりますが、それぞれですね、今回発表させていただきました 550 億円というのはですね、あくまでも初期投資の建設に関する投資額、例えば民間の工場を建てたりだとか、流通の企業を立地したりだとか、そういう建設投資に絡みましてですね、恩田原・片山地区がですね、32.8 ヘクタールで当初の建設投資額が約 169 億、それから宮川・水上地区が 42 ヘクタールで 217 億くらいの建設投資が見込まれる。ある程度ですね、限定された投資でございますが、それに対してですね、生産誘発額がそれぞれですね、宮川・水上地区が 313 億、それから恩田原・片山地区については、237 億くらいと、初期の建設投資に対してだけで 550 億くらい想定できるということで発表させていただきました。

【朝日新聞】

それは、市がはじいたんですか。それとも経済研究所ですか。

【新 IC 周辺整備課】

私どもの方でですね、恩田原・片山の事業、これから進めます宮川・水上地区の想定開発、それを先ほどもありましたけど、官民連携でというところで進めていこうということで大変力を入れています。そんなところですね、前年度、平成 29 年度に官民連携の可能性調査というところの調査の中でですね、どれだけの経済波及効果があるというところの調査をですね、私どもの発注している業務の中で推計をさせていただいている数値でございます。

【朝日新聞】

ですから、例えばそれは静岡経済研究所とか、民間のシンクタンクがやったんですか。それとも市がやったんですか。

【新 IC 周辺整備課】

私どもが発注して、民間のシンクタンクが出しております。

【朝日新聞】

どこが出したんですか。

【市長】

これは後で実務的に取材を受けてください。

【司会】

他にいかがでしょうか。よろしいですか。はい、ありがとうございました。

続きましてですが、幹事社質問はないというふうに伺っていますので、よろしいですね、幹事社さん。それでは、各社さんから承りたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、静岡朝日テレビさんどうぞ。

【静岡朝日テレビ】

昨日なんですけれども、県の方からですね、静岡市が進めている旧青葉小学校の跡地ですね。歴史文化施設についてですね。拙速に着手すべきではないという意見書が提出されたかと思うんですけれども。これ過去にも同じ意見というか、そういったものがあつたと思いますけど、重ねてこうした意見がですね、県からきたということについてですね、市長としてはどのようにお考えなのか教えて頂ければと思います。

【市長】

私は、先日の施政方針でも議会の皆様にお伝えをしたように、歴史文化の拠点づくりとして歴史文化施設や東御門、巽櫓、坤櫓、そして現在発掘調査中の駿府天守台の遺構全体をね、フィールドミュージアムとして一つの博物館に見立てた、そんな計画でおります。まさに新しい博物館の形としてのフィールドミュージアムですね。その中の要素の一つとして、徳川家康公の一生や駿府城、東海道、今川義元公等々詳しく知ることのできる博物館機能と、そこに歴史文化施設を位置づけているわけですね。そして、実物を見ていこうと言って、天守台発掘調査ということでもありますので、その役割を分けていて全体としてフィールドミュージアムですので、市はその隣接地であるね、旧青葉小学校跡地がこの歴史文化施設のガイドンス施設としてもね、最適地だというふうに理解しております。

【静岡朝日テレビ】

重ねてなんですけれども、県の意見の中で、遺構としての天守台の発掘がある中でですね、二重投資になるんじゃないかっていう言い方をしていますけれども。今もちろんご説明もあつたんですけれども…。

【市長】

二重投資、どういう意味での二重投資ですか。

【静岡朝日テレビ】

今ある遺構というものがそのものが博物館機能も有しているんじゃないかと。新たに博物館というものを建てるということが、二重投資のリスクがあるんじゃないかという指摘もありますけれども、今後で

すね、この発掘調査の後ですね、天守台をどうしていくのか天守閣の再建とかも含めた検討が必要になってくるかと思いますが、そういうまだ先が見えない中での建設が拙速っていうふうにかう言われる部分もあるのかなというふうに思うんですが、そこが定まらない時にですね、これを進めるっていうことについては、どんなふうにお考えでしょうか。

【市長】

それを着々と進めるべきだと私は考えています。第2次総合計画から登載された歴史文化施設でありますので、これを基本にして着々と整備をする中で新たな付加価値として、今回の発掘調査の成果として、この遺構が見つかったわけですね。その中に含めて全体としてこれから静岡の歴史を体感してくれるエリアとして、進めていくということであるので、全く二重投資ではないというふうに思っています。

【静岡朝日テレビ】

あとは市民の理解ですとか、合意を得ながら進めていくべきではないでしょうか、という指摘もありますが、そこは今十分に合意を得られていると、答えは得られているというふうにお考えでしょうか。

【市長】

もちろんです。一つの基準として第3次総合計画、また、この歴史文化施設も市議会に上程をして、そして同意をいただいて、ここまで進めております。

【静岡朝日テレビ】

ありがとうございます。

【司会】

他にいかがでしょうか。よろしいですか。

毎日新聞さん、どうぞ。

【毎日新聞】

先ほどの青葉小学校の跡地で県から意見書をいただいたという件で、追加で質問なんですけれども、県は今年の11月にも同じような意見書を市の方に出していると思います。その中でも遺構そのものを展示することが良いのではないかという意見が書かれていて、市長はフィールドミュージアム化をするということで、県の意向に迎合しているというか、県と同じようなことをしたいのかなという見られ方もできると思うんですけれども、そのあたりについてはどのように考えていらっしゃるでしょうか。

【市長】

おっしゃるとおりですね。私たちの考え方を理解していただきたいな、というふうに願っております。

まるごとミュージアムにしていきたいということでもあります。今回は、中高層条例、いわゆるね。正確に言うと、静岡市中高層建築物の建築に係る紛争の予防及び調整に関する条例に基づいて、これはマンションを作るのも同じですけども、高層物を作りますので、その近隣の皆さん、ここでいうと県庁と城内中学になるわけですけども、そこに、これについて例えば日照権が遮られるとか電波障害が起こるとか、そういうことについて、きちっと調査をして、声を聞いて手段を講じなさいという条例の趣旨で、県庁にもこの条例に基づいた意見具申をお願いしたわけですね。だから、先ほどのことは、その条例の枠外の話です。そこについては先ほど私が申し上げたとおりです。ただ、やっぱりこのタイミングで条例に基づいて意見具申をお願いしなければいけないということで、今回、県からこのような回答があったというふうな経緯です。

【毎日新聞】

ありがとうございます。来年度いっぱいまで終了する発掘調査を、その後どのようにするかというのはいつ頃から考えたというか、最初はどのようなふうを考えていたんでしょうか。

【市長】

最初はどのようなふうにとというのは？

【毎日新聞】

最初はというか、そもそも 19 年度いっぱいまで建設じゃなくて発掘の予定が終わると思うんですけども、そしたらその後はどうしようというのは、どう考えていたんですか。

【市長】

発掘調査の結果、ご存知のとおり、秀吉時代の金ピカのお城が見つかるということは想定していませんでした。だからこそ注目を集めたというふうに思いますのでね、これをどう活かしていくか、歴史文化施設を建設する中で、どうその魅力を増すような付加価値を付けるような、そういう要素にしていくかということをこれから検討していきたいなというふうに思っています。

しかし、その基本はやはり歴史文化施設でありますのでね、これ、プラスアルファの今回、望外の付加価値が見つかったということでありましたので、これをどうしていくかということになるかと思いません。

【毎日新聞】

わかりました。ありがとうございました。

【市長】

まったく、シナリオにはなかったわけですね、2 年前、3 年前にはね。

【毎日新聞】

フィールドミュージアムはいつから考えていた、フィールドミュージアムみたいな感じにしたいなというの、いつ頃から？

【市長】

これはもう行革審(行財政改革推進審議会)の方からも数年前からね、いわゆるそのこういう地を連携させて、集客を増やしていくべきではないかという提言をもらってましたので、遺構のみならず、2つの櫓と紅葉山庭園と全体としてどう回遊性を高めるか、今度、葵舟が実証実験が終わって民間事業者を募集するという段階に来年度していきたいと思ってますけども、一つひとつが点ではなくて、それを線にして、面にするような駿府城公園、歴史文化の拠点とするというのは最初からあった構想です。それに今回、秀吉時代の遺構が加わったということは、私にとってはたいへん追い風だったなというふうに理解しています。

【毎日新聞】

わかりました。ありがとうございました。

【司会】

はい、中日新聞さんどうぞ。

【中日新聞】

関連で、田辺市長はかつて天守閣を再現したいというようなお話があったと思うんですけど、現時点で、今のその天守閣の再建というお話って、結論が自分の中であったりはするんでしょうか。

【市長】

これはもう少し市民の皆さんの声を聞いていきたいなというふうに思っています。やはり想定外の遺構が見つかったと。その遺構を大事にして、フィールドミュージアムにしていくということと、天守閣の再建ということが両立するものなのかどうなのか、これはまだわかりません。

ですので、そこをこれから一つの課題として残されているなというふうに理解しています。

ただし、当初、発掘調査は天守閣を再建しよう、再建をしてほしいという2015年の徳川家康公の顕彰400年記念事業を展開する中で、市民の皆さんからそういう市民運動を、市民グループも現れて、要望を受けたことがきっかけで発掘調査が始まりました。

いきなり天守閣を造るということではできません。文化財保護法上ね。ですから、じゃあ発掘調査を、それを視野に入れて、天守閣の再建というのを視野に入れて発掘調査を始めましょうということになったわけですね。しかし、こういう遺構が見つかったと。そうすると先ほどの課題になってくるというわけなので、ここところは慎重に、これから検討していきたいなというふうに思っています。

【司会】

ありがとうございます。はい、朝日新聞さんどうぞ。

【朝日新聞】

今に関連してですけど、これはあるのかどうか。ちょっともしお分かりになれば、つまり駿府城に、年間どれくらいの人が訪れるのかという、カウントしてる、なんかそういったデータありますか。

【市長】

まだないですね、それはね、うん。

イベントの時にね、大道芸ワールドカップ時、駿府城公園にどのくらい人が入るかというのはありますけども、平時の時には・・・。

【朝日新聞】

大道芸ワールドカップなり、いろいろなイベントありますけど静岡まつりにも、その都度、積算してきて、数えただけでこれくらい、といかそういうのが出てこないですか。

【市長】

うん、今のところは。だってイベントの時だけってことではなくて、この歴史文化拠点そのものがどれだけの求心力があるかって、これからです。そのためにも早く歴史文化施設を造らせてください。

【司会】

はい、読売新聞さんどうぞ。

【読売新聞】

今の歴史文化施設の話もちょっと関連するんですけども、静岡市長選ですね、対立候補と言いますか、残るお二方はいわゆる大雑把に言うところの“ハコモノ”と言いますか、海洋文化施設であるとかいった計画にですね、見直しとか反対を唱えていらっしゃいますけども、これ一つの市長選の争点になるんじゃないかなというふうに思っているんですけども、そうした残るお二方がいわゆる市長が肝いりで進めていらっしゃることについて、反対を正面から唱えていらっしゃることについては、市長としてはどのようにお考えですか。

【市長】

これも施政方針の時にお示しをしたとおりです。選挙戦を通じて議論を深めていければなと思ってます。これまで8年間、特に1期目の4年間は財政の健全化が第一のテーマでありました。3.11の直後、デフレの真最中、そして合併後の特例債の発行等々でずいぶん財政が傷んでいました。そここのところをまず健全化することが第一だということで、いわゆる投資を抑制してきました。

ハコモノが市民に目立つような、そんなハコモノを造ることを辛抱してきました。その結果、財政の健全化も一定程度、これ財政局の努力もありますけれども達成をしたと。

一方で、経済を活性化していくときに 70 万政令市では、まず公共が一つの刺激を与える、公共投資を呼び水にしてもらって、それを一つ民間投資につなげていくというセオリーですね。経済学のセオリーに従って、やはり今は投資のしどきだと。私のブレーンの伊藤元重先生がそのことをアドバイスしてくださるんですけども、孫正義さんもすごいですね。やっぱりデフレの時でも思い切って投資をするという経営者マインドが一つ次の投資を呼び込むんだという発想で私もそういう意味では、節約するだけではダメなんだと。デフレマインドのまま、内部留保を溜め込むだけではダメなんだと。

設備投資をしたり、社員の給料を上げたりということをしていながら、一つ全体の経済を温めていくんだというようなことが大事なんだろうなというふうに思っています。

ですから、今回の5大構想にかける投資ということは今がタイミングだというふうに私は思っています。

【司会】

よろしいですか。ありがとうございます。他、いかがでしょう。

日経新聞(日本経済新聞)さん、どうぞ。

【日本経済新聞】

若干、話題変わります。この4年間あるいは8年間を振り返ってやりきれなかったと思う経済政策と経済運営に関しては、やり切れなかったこととか、今後の課題にしたいこととかそういったものは何か考えて、感じられているところはあるのでしょうか。

【市長】

産業政策の中で、これからやらなければいけないのは今日の話題に直結することですけども、大谷・小鹿エリアの開発、企業立地、一つの産業タウンとしてどう目を出させていくか、これが今までなかなか地権者との交渉も含めて、今まで、まだやりきれっていませんので、これから最大の課題にしていきたいなというふうに思っています。

【司会】

他、いかがでしょうか。はい、どうもありがとうございました。

それでは以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。

次回は、今年度最後になります3月 22 日金曜日、午前 11 時からとなりますので、よろしくお願いたします。本日はありがとうございました。